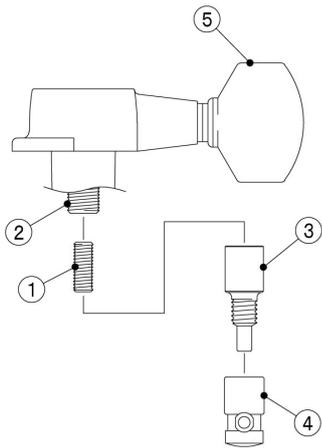


GOTOH H.A.P.M (ハイトアジャスタブルポスト・マグナムロック)

取扱説明書

～SG シリーズ・SG510 シリーズ共通～



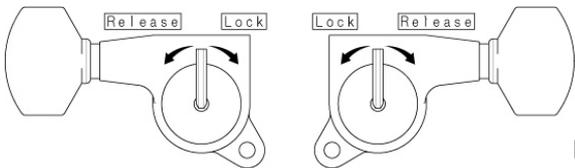
部品構成

- (1) 固定ビス
- (2) 固定軸
- (3) 可動軸
- (4) ロックナット
- (5) ツマミ

- 1** 6-in-line のセットの場合、1/2 弦用と 3～6 弦用で軸の可動量が異なります。ロックナット④の弦穴の小さい物 (φ1.2) が 1～3 弦用、弦穴の大きい物 (φ1.8) が 4～6 弦用です。本体裏にステッカー 1 枚のものが 3 弦用、ステッカー 2 枚のものが 1/2 弦用となりますので、適切に配置をしてください。L3R3 のセットの場合、1～3 弦は弦穴が小さく (φ1.2)、4～6 弦は穴が大きい (φ1.8) のものになります。

2 可動軸のロックと解除

可動軸③のロック/解除は、本体キャップの穴にレンチを差し込み固定ビス①を回し行います。この時、左右の糸巻き本体でロックと解除の方向が異なりますのでご注意ください。(図A参照)

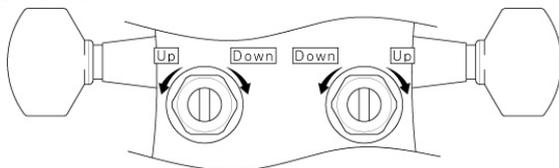


図A

3 軸の高さ調整

前項の操作で固定ビス①を解除し、可動軸③の高さ調整を行います。※軸を低めにセットしたい場合は可動軸③解除後、固定ビス①を十分に下げておく必要があります。

確実にロックが解除されていれば可動軸は手で回すことができます。この際も、本体の左右の別により可動軸の調整方向も異なります。(図B参照)



図B

上記の作業により軸長を任意の高さに設定した後、可動軸③を確実にロックし作業完了です。

※各弦の可動量は 4.5～5 ミリです。可動の範囲内でご使用ください。尚、可動軸③に抜け止めは付いておりません。緩めすぎると固定軸②から抜け落ちますのでご注意ください。高さ調整の際、ロックナット④のみ回ってしまう場合は一度可動軸③をロックし、コイン等でロックナット④と可動軸③を軽く固着させた後、再度ロックを解除し行ってください。※ロックナットの回転方向は可動軸と同じです。

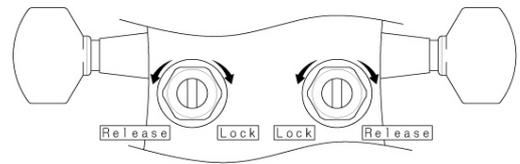
注意 可動軸③を高めに調整した際、固定軸②と可動軸③のネジ噛み合い量を最低 2 回転は確保してください。それ以下の場合、弦の張力による軸の脱落や破損の原因となります。

可動軸③を最下限まで下げた状態で固定ビスをロックせず弦を張ってしまうと、弦のテンションにより固定軸②と可動軸③が固着し、手動での再調整ができなくなります。弦を張る前に必ず固定ビスがロック状態である事をご確認ください。

4 弦の張り方

※マグナムロックは、弦のテンションによってセルフロックされるシステムです。ロックナット④をコイン等で強制的に回してもロックすることはできません。

- 1) ロックナット④が弦が通るスペースが確保できるまで緩めます。ナットを手で緩める事が困難な場合はコイン等を使用し緩めてください。この際、本体の左右の別によりロックナットの回転方向が異なります。(図C参照)



図C

- 2) 弦をロックナット④に通し、弦の先端を強く引きながらつまみ⑤を弦を巻き上げる方向に回します。

※弦を強く引かない状態でもロックは可能ですが、巻き数が増えロッキングシャフト本来の機能が生かせません。ワインダーを使用する事で作業が簡潔になります。

弦がロックされるとロックナット④が回り始めますので弦を引く手を放し、チューニングをする前に弦に十分にストレッチをかけ確実にロックします。その後、チューニングをして完了です。

5 弦交換

■弦が切れてしまった場合の弦交換

コイン等を使用しロックナット④を強制的に解除します。この際、本体の左右の別によりロックナットの回転方向が異なります。(図C参照)

■弦が張られた状態での弦交換

つまみ⑤を弦を緩める方向へ回し続ける事でロックが解除されます。

※弊社 Web サイトに動画マニュアルがございます。ご不明な点がある場合はそちらもご参照ください。



What's? - H.A.P-M



Why? - H.A.P-M



How? - H.A.P-M